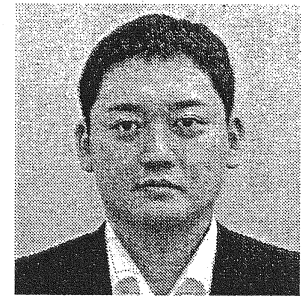


## ウェーブ 21



奥田商事  
取締役事業部長  
奥田企三宏氏

カメラの奥田は近年、監視カメラの専門として知られているが、今春から開発・販売している「OSボックス」はインターネットを活用した遠隔制御装置。

ボックス機能の特徴は、監視カメラを集約して、一カ所で複数のカメラを遠隔操作が出来、しかも従来のカメラを交換しなくても、ボックスをセットすることで、三倍のスピードで見ることが出来る。経費は監視カメラ一式を交換するよりも半額近くで済むなど経済的。現在の主な納入先は官公庁だそうだ。

ボックスは「独自センサー」機能も組み込まれ、単に見るだけでなく、日常の風景から停まっている物を特定することも出来るし、逆に動く物を特定して、ズームアップして鮮明に見ることもできる。全てインターネットの遠隔操作で出来ることから、活用範囲の拡大が予想される。

「大手カメラメーカーと同じ方向性では勝負になりませんから、いわば逆の発想ですよ」と話すのが、ノウハウの蓄積に自信が窺える。汎用性は高く「防犯カメラから防災カメラ」への用途は拡がりつつある。「三キロ先までインターネット操作で見れるカメラも開発しています」と開発意欲は尽きない。